

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和2年(2020年)

8-9月号

(通巻 189号)

2020年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ナマズ

市川市域では幻の魚です。水田が姿を消し、同時に、網の目のように広がっていた水系も失われたからです。

P1 ☀️ いきもの写真館
ナマズ

P2 ☀️ センサーカメラの記録
2019年8月～9月
/ 3

P4 ☀️ いちかわの植物 30年
オトギリソウ
ヤマハッカ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
八幡・地下の貝殻層

☀️ くすのきのあるバス通りから
我が家のアシダカグモ

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
海水魚の魅力

P7 ☀️ わたしの観察ノート
5～6月の記録

P8 ☀️ 自然博物館 利用案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



センサーカメラの記録

(2019年8月～9月)

自然博物館では、長田谷津（大町公園自然観察園）の斜面林内にセンサーカメラ（自動撮影装置）を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



サシバ(右)とハシブトガラス(左)
(2019年8月7日 12時28分)

水浴びするサシバの幼鳥を追い出そうとするハシブトガラス。止まり木を揺らしたり、トレーをひっくりかえそうとしたり・・・体はサシバより大きいのに、結局、サシバの退場後に水場に入場した。

アカネズミ

(2019年8月4日 0時53分)

アカネズミは、水場でもけもの道でも撮影された。撮影頻度は高くないが2つの点に過ぎないカメラに映ったことから、その行動範囲がタヌキのように広くないことを考え合わせると、長田谷津全体にある程度の個体数が生息していることがうかがわれる。
(夜間赤外線撮影)





アライグマ

(2019年8月8日 1時38分)

アライグマは、アニメやぬいぐるみで作られたイメージと異なり、実際は行動的な大食漢。捨てられたペットが野生化した外来種でもあり、「地域の生態系の破壊者」という側面を持つ。アライグマが撮影されたことに対しては、行政的な手順に基づいた対応をとった。(夜間赤外線撮影)



タヌキ

(2019年8月11日 17時59分)

6月に確認された子ダヌキが順調に育っていることが撮影データで確認された。写真はだいが大きくなった4頭の子ダヌキのうちの1頭。(夜間赤外線撮影)

8月から9月の撮影記録(種名、西暦の下2桁と月日)

哺乳類

アカネズミ:190804,190809,190811,190911

アライグマ:190808,190814

タヌキ:190807,190808,190809,190810,190811,190812,190813,190814,190815,190816,190820,190831,190902,190903,190905,190910,190911,190913,190915,190918,190922,190927

鳥類

キビタキ:190901,190902

サンバ:190805,190806,190807

サンバとハシブトガラス:190807

シジュウカラ:190804

ハシブトガラス:190804,190805,190806,190807,190808,190809,190903,190906

ヒヨドリ:190804,190805,190808

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

オトギリソウ

オトギリソウのなかまは山地で見かけることの多い野草です。図鑑を引くと、地域の名前を冠した種、変種、品種が多くあります。そういう場合、どうしても地域特産の種に目が向いてしまい、低地でも見られる普通種を軽んじてしまいがちです。そして、気がつくとも普通種が絶滅に瀕していたりします。

市川市域でオトギリソウに出会えることは想定していませんでした。なので、現在の国府台緑地にあたる場所で見つけたことは喜びでした。その後、何か所かで見ましたが、残念ながら安定した群落はありません。



オトギリソウ(1986 年 7 月 21 日)
国府台 4 丁目。林縁で咲いていました。

ヤマハッカ

春の花には、春の訪れを告げる華やかさがあり心が躍らされます。それに対し秋の花には、エネルギーを消費した後の余韻をたたえた風情があり、心に染み入る印象があります。

ヤマハッカの花色は慎み深い紫で、控えめな花姿と相まって、まさに秋の花のイメージです。アキノタムラソウと似ていますが、ヤマハッカの方が少なく、市域北部の小さな樹林地で人知れず咲いている印象があります。手入れをせず放置しても姿を消し、過剰な草刈りでも姿を消します。農作業の合間の草刈りというのが絶妙でした。



ヤマハッカ(1986 年 10 月 6 日)
中国分 5 丁目。市域北東部に点在する小さな樹林のひとつで見つけました。



街かど自然探訪

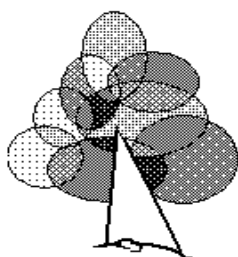
おじゃまします!

八幡・地下の貝殻層

写真は、国道14号の南側、現在高層マンションの立っている場所の地下の様子です。地表から砂の層が続いてきて、約6mのところにアサリやハマグリなどの貝殻がたくさん集まる層があります。この貝は、地層ができた時の海に生息していたもので、時代を調べたら約5千年前とわかりました。京成八幡駅南側の工事現場でも、貝殻が混じった土が見られました。貝殻層はこのあたり一帯に広がっているようです。



△1997年11月撮影 地下約6m(標高約マイナス3m)
大きな貝殻はバカガイ。三番瀬などで今も見られます。



くすのきのあるバス通りから No.131

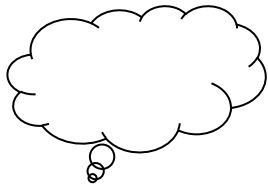
我が家のアシダカグモ

6月11日に梅雨入りし、8月1日に明けました。気温が上がらず、雨が多かったです。その条件がよかったのか、ネムの花がたくさん長く咲き続けていました。7月13日ミンミンゼミが羽化したのを見ました。16日に、浜道や霊園でたくさんのニイニイゼミが、クマゼミは少し範囲を広げて鳴いていました。20日、アブラゼミの羽化途中の幼虫を娘が拾ってきました。8月8日葛飾八幡宮でツクツクホウシが鳴いていました。ツバメが2回目の子育てをしているようです。

数年前、大きなアシダカグモが家の中にいました。その頃はゴキブリがたまにでました。その後、アシダカグモがいなくなり、アダンソンハエトリグ

モがいるようになりました。家の前の道路の舗装の際、工事の人が下水の蓋を開けた時、たくさんのゴキブリが見えました。夕方、玄関の外にアシダカグモがいる時がありました。「大きなゴキブリが家人の帰宅と一緒に入ってきたり、荷物にまぎれてくる。」と本で読んだことがあります。アシダカグモはゴキブリを察知して家に入ってくるようです。先日、久しぶりに家の中にアシダカグモがいました。その後ゴキブリも見かけました。車で本八幡に行ったとき、ワイパーのあたりからアシダカグモがでてきました。エンジンルームに隠れていたのでしょうか。振り落としていなければいいのですが…。

(M. M.)



展示室



飼育生物の話題



海水魚の 魅力

博物館ではいろいろな生き物を飼育展示しています。外国産のカブトムシなどはとても人気がありますが、海水魚の水槽も人気です。淡水魚よりも形態や動きが多彩で、華があるからでしょう。子どもたちはもちろん、スタッフにも人気があります。ただ、海水魚は入手が難しいので常時展示しているわけではありません。漁師さんからいただいたり、海に出かけた関係者から届けられたものを展示します。青潮の時に助けた海水魚を展示したこともありました。

原稿執筆時点で飼育展示しているのは、写真のショウサイフグのほか、イシダイ、トサカギンポ、トビハゼで、控えとしてクロダイとハゼのなかま（チチブ類）がいます。博物館での飼育は一般家庭でも取り組めるような小型の水槽や飼育ケースを基本としているので、ショウサイフグ、イシダイ、クロダイは幼魚です。過去には、ボラやスズキの幼魚のほか、ヒラメやイシガレイ、ギンポ、イダテンギンポ、マハゼ、マアナゴ、コトヒキ、トラフグ、クサフグ、ハナオコゼなども飼育しました。

突然届くので、餌の選定に苦労します。ショウサイフグはアメリカザリガニの身をよく食べます。イシダイは生餌（ミズムシやイトミミズ類）が好物で、同じ水槽のトサカギンポと取り合っていますが、うまく共存しています。



◆長田谷津より

- ・鳥類調査をしていると、真横をフクロウが飛んで行きました(5/1)。フクロウは獲物をくわえていました。巣にいる雛に餌を運んでいると思われます。
- ・大池にカワセミのオスの成鳥が来ていました(5/2)。池に飛び込んでモツゴを捕まえると大池から流れる川を下流へと飛んでいきました。近くにある巣に餌を運んでいると思われます。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・最近、園路沿いで増えているイネ科の野草は、オオスズメノカタビラのようにです(5/13)。イチゴツナギの仲間としては、ありふれた帰化植物ですが、長田谷津では以前は見られませんでした。湿地が埋まって、乾いた土地に生える植物が侵入してきています。
- ・ウツギの花は、見たいというリクエストが時々あります。いまは三角池のほとりの株が良く咲きます。この日は、咲き始めという感じでした(5/22)。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・ヤマガラが大きなスズメガの幼虫を捕食していました(6/26)。カワセミが魚を木にたたきつけるように、枝に幼虫をたたきつけ食べていました。

稲村優一(自然博物館)

◆大町より

- ・例年ならゴールデンウィークで賑やかな園内の水路にキセキレイがいました(5/6)。対岸を通り過ぎても、そのま

ま岩の上に止まっていました。

宮橋美弥子(自然博物館)。

- ・アリを専門に捕食するハエトリグモのアオオビハエトリが大きなクロオオアリの兵隊アリを捕食していました(6/2)。自分の倍以上あるクロオオアリをよく捕食するものです。
- ・博物館のすぐ横の林からホトトギスの鳴き声が聞こえてきました(6/2)。すぐ近くで鳴いているようで、事務室の中でも声はよく聞こえました。

以上 稲村優一(自然博物館)

◆北国分より

- ・オカトラノオが咲いていました(6/12)。春に草刈があったせいかわぶりでした。撮影していたら、背後の北国分第3緑地からウグイスの声がしきりに聞こえてきました。

谷口浩之さん(北国分在住)

◆真間山南側斜面林より

- ・久しぶり(2018年3月以来)にタヌキを見かけました(6/10)。はじめネコかと思ったのですが、うしろ姿はタヌキでした。6/29にも見ました。
- ・昨年秋の卵からスズムシがようやくふ化しはじめました(6/28)。例年よりかなりおそかったので、今年はダメかと思っていましたが、楽しめそうです。

以上 M.T. さん

5月は気温の高い日が多かったですが、急に冷え込む日もありました。6月11日に梅雨入り、しっかり雨が降りました。



自然博物館 利用案内



開館時間

午前9時30分～午後4時30分（入館は4時まで）

休館日

- ・毎週月曜日（ただし月曜日が休日の場合は翌日）
- ・年末年始
- ・展示室整備のための休館（令和3年2月頃を予定）

交通案内

○北総線「大町駅」より

自然観察園入口まで 徒歩5分

観察園を抜けて 徒歩25分

○JR武蔵野線「市川大野」駅より

コミュニティバス往復ルート「松飛台駅」行き

「動植物園」下車（1日数本運行）

○JR総武線「本八幡」駅北口、

JR武蔵野線「市川大野」駅より

京成バス「動植物園」行き

終点下車（土休日のみ運行）

○お車の場合は、

動植物園入口の駐車場

（普通車500円）を

ご利用ください。



第33巻 第3号（通巻第189号）

令和2年9月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477